



2024年にクアラルンプールのA+Works of Artギャラリーで開かれた個展「One of Our Fossils」展示風景。
大量の鶏の骨によるインスタレーション。黄色い照明は考古学者が発掘調査時に使うライトからインスピレーションを得た。

ADAM PHONG

The Meaning of Future Ruins

未来人が発掘する遺物とは



マレーシア芸術大学で絵画を学んだアダム・フォンは、キャリアの初期には絵画やドローイングを手がけていた。今は彫刻やオブジェを制作している。絵画ではこんなところがあればいい、と思う場所を描いていたという。作品が平面から立体やインスタレーションに移行しても、それは彼が想像する世界を実体化させたものだ。

「私の特徴は変化すること。いつも何か新しいことをやりたいと思っている」というアダム

は、こうして次々と表現形態を変えてきたが、昨年発表した新作はさらに大きなシフトチェンジとなるものだった。黄色い光に照らされた展示室内には大量の鶏の骨をワイヤーでつないだオブジェが並ぶ。これは将来、人類が滅亡したあとは核廃棄物とプラスチック、鶏の骨が現在の文明を後世に伝える遺物となるだろう、という論文から着想したものだという。鶏の骨はファストフードなどで大量消費される、より早くかつローコストで成長するよう品種改良された家畜の象徴だ。観客は自らが遠い未来の人間となり、21世紀の遺跡を振り返るような感覚を覚える。

この作品は先のことをあまり考えなくなっている風潮に対抗するものだ、とも語る。もっと長期的な視野で将来を見るべきだと彼は考えているのだ。また商品としてのアートを超えてアートに何ができるのかについてもより活発な議論がなされるべきだともいう。SFめいた彼のインスタレーションが現在の世界が抱える問題を照射する。

ADAM PHONG

アダム・フォン：2002年、マレーシア生まれ。2023年にマレーシア芸術大学を卒業、現在クアラルンプールを拠点に活動。インスタレーション、彫刻、絵画だけでなく音や香りといったものも制作、科学とアートを横断するような作品を手がけている。